

会議概要附属機関等の名称 安曇野市上下水道事業経営審議会

- 1 会 議 名 令和6年度 第1回 安曇野市上下水道事業経営審議会
- 2 日 時 令和6年7月22日(月) 午後2時から午後3時15分まで
- 3 会 場 安曇野市役所本庁舎 305会議室
- 4 出 席 者 保尊委員、二木委員、猿田委員、牛越委員、黒岩委員、赤沼委員、
齋藤委員、加々美委員、中村委員、田中委員
- 5 市側出席者 丸山上下水道部長、藤森経営管理課長、西山庶務担当係長、小松庶務担当係長、
中田上水道課長、重野課長補佐兼維持係長、宮澤工務係長、豊田管理係長、
麻田下水道課長、中田課長補佐兼下水道担当係長、曾山下水道担当係長、木村
下水道担当係長
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 0 人 記者 1 人
- 8 会議概要作成年月日 令和6年7月30日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 自己紹介（経営審議会委員及び事務局職員）
- 5 議事
 - (1) 令和6年度予算について
 - (2) 安曇野市下水道事業経営戦略の見直しについて
 - (3) その他
- 6 その他
- 7 閉会

○議事の概要

- (1) 令和6年度予算についての説明
(資料に沿って事務局から決算概要により説明)

<質疑>

委 員： 災害時の避難所への配水管の耐震化で、例えば民間の特養や老健（常念荘や豊岳荘など）へ耐震化を進める計画はあるか。

事務局： 上水道ビジョンの主要管路の布設工事事業として、指定避難所、官公庁、医療機関、福祉避難所55施設を現在は対象としている。

委 員： 特養や老健などお年寄りのかたが逃げ込んでいくと思うので公ではないが早めに進めたほうが良い気がする。

委 員： 一般会計繰入金の算定基準が変わりかなり減ってきているが、これに伴い補填財源や平準化債の動向等変わってくると思うがこの見通しを。

事務局： 特別会計から企業会計に移るときに一般的には繰入金はこのくらい減るという見込みがあった。

事務局： 特別会計の時は全て現金主義で収入から支出を引いた赤字の部分は一般会計の繰入金をいただく。企業会計になると現金の移動がない科目もあり、例えば14ページ下水道事業会計の減価償却費、これは予算上経費として見ますが現金の移動はありません。それから長期前受金戻入というのは、減価償却費に伴って、その当時いただいた補助金や企業債を償還年度ごとに分割して、収入として見るというもの。当該年度には現金の動きはなく、差額については留保財源となっている。

この現金の動きがない部分を繰入金として試算するにあたり見直した結果5億ぐらい少なくなっている。原因は企業債の残高が200億以上あるという状況で毎年20何億償還しており、その部分でどうしても赤字になってしまう。

資本平準化債を増額し、対応できるか試算したところ、残高もだいぶ少なくなってきたおり、あと7～8年すれば、企業債の償還額がぐっと少なくなり、下水道の財源だけで償還できるようになる見込み。あと7～8年の間、資本平準化債を借りるが、それ以降は下水道の自主財源だけで運営ができる見込みである。

委員： 6ページの水道事業会計の予算概要を見ているが、原油価格の高騰や電気料金が8600万円程度、費用が増えていく見込みがされているがどの程度持ちこたえることができるのか、先の見通しを説明願いたい。

事務局： 令和3年の12月頃から電気料金がぐっと上がってきている。4年度の決算時に電気料金が高騰し、5年度の予算はさらに大変だろうと予算は十分確保した。5年度については、政府の電気料金の補助により、見込みより3000万程安く済んだ状況。6年度については、補助を打ち切る話があったが、8月からまた再開する話もあり、見込めない状況である。

下水道はあまり利益が出ていないが、水道については毎年3億の利益を出している。今後の管の補修等に充てて更新していかなければならないが、市は全て井戸水で井戸から汲み上げているため電気が止まると取水できなくなるため、そのバランスを見ていくしかない。

今すぐに料金を上げる事は考えられないが、この投資と収支のバランスを見ていきたいと思っている。

ただ、困ったことに人口の減少で家庭向けの13ミリという一番細い口径が減少している。しかし、コロナが終息した影響か、太い口径については軒並み伸びてきており、事業活動は順調にきている、という思いがある。また、青木花見に工業団地を作る計画があり、そこにくる業者がどれだけ水を使っていたか見ていかなければいけないと思っている。

委員： 昨年水道ビジョンで今後の見通しを作っており、電気料等、諸々の状況も加味されていると思うが、現状、財政的な中身を検討しなければいけない時期なのか、まだそこまでいっていないのか教えていただきたい。

事務局： 水道ビジョンについては、9年までの計画になっており、状況に合わせて見直していかなければならないが、その前に今年は下水道の経営戦略のこれまでの計画との差異を検証していきたいと思っている。水道ビジョンについては、今年から来年にかけて行いたいと思っている。

委員： 先日NHK番組の中で、水道危機の番組があり、当然のごとく老朽化が進んでいくとお金もかかってくるという話があったが、私見だがやはり住民の皆さんに今の水道の状況、下水道の状況がどうなっているのか、常日頃から知ってもらうことが大切だと思う。

なぜかと言うと、将来的には必ず値上げをしていかざるを得ない時期が来る、そういう意味では住民の皆さんに知っていただかなければと私は思っている。

委員： 予算書の1ページ目の1番の危機管理への対応ですが、5年度の当初予算と6年度の当初予算を比較すると、半分くらいになっており、大きな理由を教えてください。また、関連するのか、2ページ目の4番の老朽化した施設の更新工事は令和6年度で3億1600万円と、だいぶ増えているが、耐震工事が終了してきて、こちらへ予算を集中的につぎ込んでいるのか。

それと、2の持続性確保の既設管路の更新工事と、4の持続性確保の既存施設の更新工事業の違いは。

事務局： 初めの質問ですが、こちらは主要管路の整備ということで各配水池の系統ごとで順次整備を進めており、昨年度まで行っていた上原系と上長尾系の配水整備の最後の年で事業量が非常に多かったことが一番の原因。

今年については、堀金に手を付ける初年度であるため事業量は伸びず、このような形となっている。耐震化の事業はまだ残念ながら終わったわけではない。

4番については、施設の更新事業で、施設という形で管路と管路以外の部分を区別している。6年度はポンプの整備など管路以外の部分の整備を予定しており、このような形で事業量が増えている。

2番と4番の違いについては、2番については老朽管ということであくまでもその管路の更新、4番については施設ということでポンプや機械設備の更新ということで分けている。

委員： 能登半島の上下水道被害の関係で、市からも行かれたようだが、当然ビジョンや計画では、耐震化の話は載っており、地域によって諸事情があるので一概には言えないが、今のビジョン等の中でもう少し考えたり、力を入れたりと検討しているのかお聞きしたい。

事務局： 能登地震の関係は、上水道課として4回、給水車で給水の応援ということで行かせていただいた。毎年、防災訓練は行っているが、応援に行ったときに非常に感じたのは、応援を受ける側の支援する場所や体制の整備など、ある程度しっかり系統立てて計画しておかないと、いざ応援がきても、それがすぐ役に立てることができない。そういった防災訓練を通じて受援体制の再整備等が必要だと非常に感じた。

また、給水車は中型や準中型の免許が必要で、今の若い職員については新たに免許を取得し、いざという時に備える必要があると考えている。

委員： 今の話に関連して、孤立集落、要するに現地へ入れない、情報を得られないとニュースで問題になっているが、安曇野市は計画の中にそういう被害想定での災害対応、そういったものも考慮されているのかそこまでのレベルまでは考えていないのか。

安曇野市も、孤立集落になる可能性の地形が東西南北にあると思うが、大きな地震がくれば、能登と同じような状況になると思う。その辺りの対応というか、計画、例えばそれを修正しなければいけないのか、考えを教

えていただければ。

事務局： その防災計画の中に、どこまで孤立集落の対応が入っているか把握してなく申し訳ないが、水道としては、避難所に指定されている場所には確実に水を届ける体制をとるため、今、耐震管を敷設しているところ。

能登の被害状況について、報道等でも半年近く水が通らなかったところがあったというような状況で、安曇野市もどうなるのか心配はするが、1つあるのはやはり海岸で液状化現象が多かったかと。

ここも地下水位が高いが、砂地ではないのでどんな状況になるか想像もつかないが、能登で被害が大きくてなかなか水が通らなかったところは、耐震管ではなかったところ。

今、私どもができることは耐震管を入れていくことだと思っている。

委員： 追加で、避難所、例えば穂高南小学校だとか、穂高会館だとか、ああいところは耐震用の蛇口を見たが、全体計画としてどれくらいの個所にそれを作って今どれくらい整備されているのか教えていただきたい。

事務局： 整備の状況だが、重要給水施設への主要管路の整備ということで、災害時の指定避難所等で55箇所をビジョンの中でうたっている。そのうち、5年度末で17の施設に耐震管が接続できている状態。先ほどおっしゃられたのは水色の応急給水栓のことだが、17箇所全部につけるというわけではなく、現在、穂高で6箇所、三郷で5箇所設置している。

委員： 穂高会館や穂高支所等は、そこまでは耐震化されており、そこから蛇口で水が出るということなのか、説明をお願いしたい。

事務局： どちらも同じような状態であるが、上原の配水池から耐震性のある専用管を布設してあり、それぞれの施設の水道に繋がっており、メーターまでは耐震管で繋がった水が給水できる。それに合わせて先ほどの水色の応急給水栓を場所によっては設置しており、災害があつてご自宅の水が使えないような方が車で来て給水袋に水を入れて持っていきやすい施設ということで、屋外の車を停めて利用できる場所に応急給水栓という形で整備している。

委員： ここの地域の一番の心配で、豊科の井戸は震度4くらいの地震が起きるとシリカという成分で水が濁ってしまい、濁度計によってその井戸水を止めて、給水タンクに入らないようにし、綺麗な水だけを配水するという方針が進められていると思うが、今まで豊科の井戸がそれで乗り越えてこられたのは、何度も何度も余震が起きて常に揺られていることはなかったから、時間が経つと綺麗な水をちゃんと用意できるようになる。ところが、心配している大きな地震が起きて、何日も余震が繰り返すことになれば、実際は給水が一切できなくなる。給水タンクが空になったら、配水することができない。

配水エリアも豊科地域だけでなく、三郷にも送るようになり、一部明科にも送るようになった。かなりの人口規模が給水することができないと心配している。そんなことも考えているのか、今すぐ答えていただかなくてもよいが、おそらくその辺のシミュレーションも課題としては当然立てられていると思うが、その時に給水車を各方面から手配したものを、例えば日赤には何台持っていくとか、要するに透析の患者さん等いるところは水を切らすわけにはいかない。あるいは患者さんには別の市に移動していただくような手配までするケースもあるかもしれないが、現実には他の地域で起きているわけですから、この機会にその辺についても1度しっかりしたシミュレーション・議論をしていただいて、お示しいただきたい。

事務局： 先ほどの受援も含めて検討は必要だと思っているので、細部まで検討できればということで考えている。

委員：説明の中で電気料の高止まりが続くということで電気料がかなり負担になると思うが、コスト削減のために、半導体やモーターのインバーター制御など非常にモーターをたくさん使われているということで、専門的なコンサル等、検討する機会とか、考えているか。

事務局：今のところは考えてはいない。

委員：まずは、情報収集、幅広いアンテナを立てて、例えば電気のそういう技術が発展してくるのをなるべく早く取り入れる等、そういう視点が大切なのでそういう情報を日頃からアンテナを高くしてとらないと駄目なのでお願いしたい。

委員：今、情報収集というような話があったが、下水道公社では水道・下水道の技術研究会というのを去年から行っている。

いくつかの市町村の方に代表で集まっていたき、今のような震災のことですとか、いろんなテーマで勉強会みたいな形でやっている。安曇野市もいつも参加していただいているかと思うので、またそういった機会を使っていたき、こういうテーマはどうかってというような提案いただければと思います是非よろしくお願いしたい。

(2) 安曇野市下水道経営戦略の見直しについての説明

事務局：水道事業については「安曇野市水道ビジョン」下水道事業については「安曇野市下水道事業経営戦略」という目標を立てて事業を進めている。

経営戦略につきまして、令和3年度に改定し、4年から9年までの6年間の計画となっており、今年ちょうど折り返しとなるので、これまでの事業の実施状況を踏まえて、投資計画と財政計画が実際どの位ずれてきているのかの検証に着手している。

次回までには見直しの結果を報告したいと思うのでよろしくお願いしたい。

議長：今の経営戦略の見直しについて、経営戦略の中に3年くらい経ったら見直しを検討するような内容。

それに関わるというか、全体的に財政に影響するような事柄がなければ若干の微調整になるかもしれないが諮問までは発展しないというふうに理解した。

<質疑>

特に質疑なし

(3) その他

穂高有明の一部地域で発生した水道水の塩素臭対応についての説明
(資料に沿って事務局から説明)